

平成26年8月20日
総務財政委員会

第三セクターの経営情報について

白島石油備蓄株式会社
(平成25年度)

総務企画局

第三セクターの経営情報について 〔白島石油備蓄（株）〕

1 会社概要

（1）事業内容

- ① 石油備蓄基地の運転、保全及び安全防災に係わる事業
- ② 前号に付帯関連する事業

（2）会社設立及び本市の出資額・割合

会社設立	昭和56年6月8日
資本金	1億円（うち本市出資額5,000千円 出資率5.0%）

2 事業報告要旨

【当期業績】

白島国家石油備蓄基地は、エネルギー安全保障政策として石油の供給途絶など緊急時に備え、国家備蓄として日本の石油消費量の約10日分の原油を貯蔵する洋上石油備蓄基地である。

当期におけるわが国経済は、設備投資の持ち直しや物価の緩やかな上昇を背景に企業収益が改善し、雇用情勢も着実に改善するなど景気は緩やかに回復している。

このような経営環境の下、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」という。）との平成25年度から平成29年度までの5ヶ年に亘る白島国家石油備蓄基地操業に係る業務委託契約（以下「業務委託契約」という。）の初年度にあたり、増加する工事に対する昼間の保安全管理人員の確保を図るべく、交代勤務体制を変更した。

基地の操業に関しては、備蓄原油の緊急放出時の活用度向上のための原油種入れ替えの実施、また平成26年度にかけて実施する貯蔵船白島七号水封タンク内防食工事に着手した。平成22年度から取り組んでいるゼロ災運動についても意識・行動の定着化が図られ、これら油種入れ替えや大型工事を無事遂行し、基地の安全・安定創業を継続している。

なお、業績については、当期は機構から7,793百万円の収入を得て、29百万円の当期純利益となった。

【来期の課題】

来期は、機構との業務委託契約の2年目に当たり、入札に際し機構に提出した企画書に則り、個々の技術提案を着実に遂行するとともに、経営方針・行動指針に基づき、会社目標である「安全・安定創業の継続」、「業務改善、コスト効率化の推進」、「人材の育成・モラルアップと組織の活性化」、「地域社会との共生、環境との調和、品質の維持・向上」に取り組んでいく。

また、現在遂行している貯蔵船白島七号水封タンク内防食工事の完遂や平成27年度にかけて実施する貯蔵船白島四号泊地内検査工事の着手など大型工事が続くが、協力会社を含む三位一体による安全管理体制の下、引き続き基地の安全・安定創業に努めていく。

3 決算報告要旨

損益計算書

自 平成25年4月 1日
至 平成26年3月31日 (単位：千円)

科目	金額
売上高	7,793,417
売上原価	7,344,069
販売費及び一般管理費	375,856
営業利益	73,491
営業外収益	3,084
営業外費用	504
経常利益	76,072
特別損失	668
税引前当期純利益	75,404
法人税、住民税及び事業税	35,212
法人税等調整額	10,743
当期純利益	29,448

4 剰余金の配当

株主配当金に20,000千円(1株につき2,000円)。

これに伴い、500株を所有する本市に対しては、株主配当金として1,000千円が支払われた。

5 その他事項

(1) 従業員数 87名(平成26年3月31日現在)

(2) 株主総会 平成26年6月24日に第33期定期株主総会が開催され、以下の議案が異議なく可決された。

第1号議案「第33期計算書類承認の件」

第2号議案「剰余金処分の件」

第3号議案「取締役全員(5名)任期満了につき取締役5名選任の件」

第4号議案「監査役1名辞任につき監査役1名選任の件」

事業報告

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

1. 事業の概況

(1) 事業の状況

【当期の業績】

当期における我が国経済は、設備投資の持ち直しや物価の緩やかな上昇を背景に企業収益が改善し、雇用情勢も着実に改善するなど景気は緩やかに回復しております。

このような経営環境の下、当社は、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」という。)殿との白島国家石油備蓄基地操業に係る業務委託契約(平成25年度～平成29年度、以下「業務委託契約」という。)の初年度にあたり、増加する工事に対する昼間の保安全管理人員の確保を図るべく、交替勤務体制を変更致しました。

基地の操業に関しましては、備蓄原油の緊急放出時の活用度向上のための原油油種入れ替えの実施や平成26年度にかけて実施する貯蔵船白島七号水封タンク内防食工事に着手致しました。また、平成22年度から取り組んでいるゼロ災運動についても意識、行動の定着化が図られ、これら油種入れ替えや大型工事を無事遂行し、基地の安全・安定操業を継続しております。

これもひとえに株主様の皆様をはじめ、関係機関ならびに地域の皆様からのご支援の賜物であり、心からお礼申し上げます。

業績につきましては、当期は機構殿から7,793百万円の収入を得て、29百万円の当期純利益となりました。

【来期の課題】

来期は、機構殿との業務委託契約の2年目に当たり、入札に際し機構殿に提出致しました企画書に則り、個々の技術提案を着実に遂行するとともに、当社の経営方針・行動指針に基づき、会社目標である「安全・安定操業の継続」、「業務改善、コスト効率化の推進」、「人材の育成・モラルアップと組織の活性化」、「地域社会との共生、環境との調和、品質の維持・向上」に取り組んで参ります。

また、現在遂行しております貯蔵船白島七号水封タンク内防食工事の完遂や平成27年度にかけて実施する貯蔵船白島四号泊地内検査工事の着手など大型工事が続きますが、協力会社を含む三位一体による安全管理体制の下、引き続き基地の安全・安定操業に努めて参ります。

株主各位におかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(2) 設備投資の状況

本社において、事務所移転に係る設備投資を行なっております。

(3) 資金調達の状況

借入等、資金調達は行なっておりません。

(4) 業績および財産の状況の推移

期 別 項 目	第 30 期 (平成 22 年 4 月 ～平成 23 年 3 月)	第 31 期 (平成 23 年 4 月 ～平成 24 年 3 月)	第 32 期 (平成 24 年 4 月 ～平成 25 年 3 月)	第 33 期 (平成 25 年 4 月 ～平成 26 年 3 月)
営業収益 (千円)	8,311,063	5,881,456	5,208,893	7,793,417
当期純損益 (千円)	27,126	43,573	48,174	29,448
1 株当たり 当期純損益 (円)	2,712	4,357	4,817	2,944
総 資 産 (千円)	2,676,950	2,248,716	2,190,641	3,152,420
純 資 産 (千円)	535,992	559,566	587,741	597,190

2. 会社の概況（平成26年3月31日現在）

(1) 設 立 昭和56年6月8日

(2) 事業内容

- イ. 石油備蓄基地の運転，保全及び安全防災に係わる事業
- ロ. 前号に付帯関連する事業

(3) 株式の状況

イ. 株式の総数

発行可能株式総数	10,000株
発行済株式の総数	10,000株

ロ. 株主数 5名

ハ. 株主

株 主 名	持 株 数	議 決 権 比 率
コスモ石油株式会社	3,938株	39.38%
株式会社商船三井	2,812	28.12
JX日鉱日石エネルギー株式会社	2,250	22.50
福岡県	500	5.00
北九州市	500	5.00

(注) 当社の上記株主への出資はありません。

(4) 主要な事業所

本 社 〒107-6015
東京都港区赤坂一丁目12番32号
(03) 5574-7431 (大代表)

北九州事業所 〒808-0021
福岡県北九州市若松区響町一丁目108番
(093) 752-1460 (代表)

(5) 従業員の状況

区 分	男 子	女 子	合 計
本 社	12名	3名	15名
北九州事業所	68名	4名	72名
合 計 (前期末比)	80名 (前期比±0)	7名 (前期比±0)	87名 (前期比±0)

平均年齢 42才10カ月 平均勤続年数 10年11カ月

(6) 取締役および監査役の氏名等

地 位	氏 名	担当（兼務の状況）等
代表取締役社長	瀧 嶋 輝 行	
専務取締役	川 口 修	
取 締 役	山 口 洋 史	経理部長
取 締 役	山 村 秀 省	業務部長
取 締 役	岡 田 隆 二	北九州事業所長
監 査 役	熊 澤 潔	(コスモ石油株式会社 執行役員 供給部長 兼務)
監 査 役	佐々木 直	(JX 日鉱日石エネルギー株式会社 CSR 推進部 副部長 兼務)